

過去に学び未来に備える

市長 米本 弥一郎



近年、大型の台風や集中豪雨が相

次ぎ、これまで自然災害の少なかつた地域も含め、全国各地で大きな被害が出ています。9月8日に台風13号が接近した際には、県内で線状降水帯が発生し、本市でも土砂災害警戒情報の発表と同時に災害対策本部を設置し、避難所を開設しました。

幸いにも市内で人的・住家被害はありませんでしたが、茂原市などで甚大な被害があり、本市からも応援職員3人を派遣しました。

ドイツの社会学者ウルリヒ・ベックは、産業の発展が環境破壊などのリスクを生んだとして、現代社会を「リスク社会」と表現しました。地球温暖化が要因ともいわれる台風の強大化や頻発する豪雨は、現代社会が抱えるリスクの一つといえます。

本年は、約10万5千人の犠牲者を出した関東大震災から100年の節

目でもあります。

この震災では、火災により都内で多くの建物が焼失しましたが、千代田区神田の一带では、住民が力を合わせ、決死のバケツリレーで町を守ったそうです。この地区は「町内協力防火守護の地」として語り継がれ、共助の大切さを伝えていきます。

一方、混乱の中でさまざまなデマが流れ、日本に住む外国人などが虐げられるという悲しい事件も起きました。現代でもSNSなどの普及により、デマやフェイクニュースの拡散が心配され、災害時には発信される情報の見極めが重要となります。

過去の教訓も踏まえ、地域の防災力を高めていくことが必要です。今月15日には総合防災訓練を実施します。一人一人が改めて防災について考え、災害に備える契機にしたいです。